

ひとが輝く多世代交流のさどづくり

2018年4月15日

桑原聡建築研究所 代表 桑原聡

01-はじめに CCRC（暮らし続ける街づくり）に向けた私の思い

持続的な暮らしを支えるキーワードとして、安全やバリアフリー、体の負荷を軽減するための技術的なこと、だけでなく、「暮らしの質」に関する具体的なもの、ことを作り上げたい。

- ・ その場所で最期まで暮らせる「気持ちの良い場所と環境」をつくること
- ・ 最期まで自分の意思で暮らし続けるための「楽しく頑張れる（頑張ってもらえる）場所」をつくること
- ・ 地域の中で「自分の立ち位置を見つける」こと

地域での「暮らしかた」、「住まいかた」を「多世代交流型のコミュニティ」につなげていくための工夫を埋め込みたい。

- ・ 他世代と受動的・能動的に「交わり」を持つ（持たせる）こと
- ・ 「高齢者」「単身者」「学生」「女性」「子育てファミリー」など、ゲートイッドなコミュニティではなく「混成」コミュニティを作ること
- ・ 「みまもる目」と「見られる場所」「見える場所」を地域の中に作り込むこと

建築家は建物を作って終わりではない。

- ・ 理想とする「場所と環境」そして「アクティビティ」をデザインすることが重要

わたしが考える「場所と環境」そして「アクティビティ」の具体事例

02-父と母の家「古稀庵」 1998年7月竣工

03-オークフィールド八幡平 2015年11月竣工

04-東八幡平病院 2017年4月竣工 2018年12月グランドオープン

05-なないろのとびら診療所 ことのはきっちん 2017年10月完成

06-「誘い出し」と「見守り」（人が屯する風景）

地域包括ケアのための具体的な施設やかたちがあるわけではない。家にこもりがちな人々をいかにして「家の外に誘い出し」、その上で地域のあちこちに「みまもり」の目線をデザインするかに尽きると考えている。

最初の写真はイタリア、シチリア島、南西部の町シャッカという小さな町。この町

のお年寄りたちが広場のベンチやバールに集まって広場を歩き交う人達を見ながら何やら楽しそうに会話をしている。これこそが私が理想とする地域の「みまもり」のかたちであり、地域包括ケアの基本の姿である。

広場のベンチに腰掛けるお年寄りからはこんな風景が。見えるものに変化があって楽しいと自然に人は外に集まってくる。

広場に面したバールで楽しそうに会話するお年寄りたち。おそらくこの方々はこの地域から外に出たことはなく、この町を誰よりも愛していて、この町以外に住むことは考えられないと思っている人たちである。勿論、地元のイタリア料理以外食べたことはない。このようなお年寄りはイタリアだけでなくどこに行っても地方の町には必ずいる。「この地域が一番」、という「幼時からの刷り込み」がある。

都市以外の場所でもこうして人々が集う風景に出会うことがある。シーパルピア女川のテラスから復興工場の現場を眺めながら思いにふける人たち。しかし、炎天下では、木陰、日陰を作る配慮のなさはNG。

東日本大震災の被災地、宮城県女川町の災害復興公営住宅で見かけた光景。コミュニティバスを待つおばあちゃんたちは実に楽しそう。ベンチ一つでこんな光景が作れる。これも日除けか木陰を作れば完璧である。

宮城県七ヶ浜町の復興公営住宅で見かけた子供たちとお年寄りの交わりも素敵である。子供と触れ合うことで笑顔が溢れている。この住宅ではすべての住宅が廊下とテラスを介して中庭に開かれているので中庭に反響する子供たちの声が寝たきりのお年寄りのお部屋まで届くようにできている。

八幡平市柏台で見かけたお婆ちゃん二人。86歳と83歳。マイネコを傍らに木陰の塀に軽く腰掛けて楽しそうにお喋り。二人が選んだこの高さ、「ちょっと腰掛ける高さ」として実に良い按配なのだ。私がいつも高めの椅子と高めのスツール、ベンチをお勧めするのだが、施設のスタッフの猛反対にあう。立ち上がるのに難がある低めの椅子なら「安全に」拘束できるとの意図があるようだ。

外海府大倉集落で見かけたお婆ちゃん二人、89歳。マイ乳母車を傍らに楽しそうにおしゃべり。思わず車を停めて話しかけると、笑顔が返ってきた。特に子どもと話すとき、実に良い笑顔が現れる。

家に閉じこもりがちなお年寄りをはじめとした人々が自然に町に出てきて社会参加する、あるいは家にいても町や地域に開かれていくように仕向ける「小さなデザイン」の積み重ねにより「場所」と「環境」そして「アクティビティ」を作り出す。

その場所を「居住・観光」・「医療・福祉」・「教育」の交流拠点につなげる。

07-多世代交流のさどづくり 課題

ここまでは私が岩手県八幡平市を中心として現在取り組んでいる活動についてお話ししました。

中には地域共通の課題もあったかと思えます。

それでも、課題解決には佐渡ならではの手法と取り組みが期待されます。

従って、ここから先、佐渡でこれから何をすべきかはみなさんとともに考えていきたいと思えます。

そこで聞きます。「何をもっとよくしたいですか？」

今日のワークショップは、「みなさんがしたいこと」を言葉にする場です。

その課題を私なりの切り口で最後にまとめてみます。

- ・ 「居住・観光」空き家リノベーション

サテライト居住・サテライトワークは既存の地域資産を活用でき、即効性がある。

「泊食分離」型宿泊、食事提供しない・浴室施設をもたない・せいぜいシャワー設備のみの「リノベーション民家」へのインバウンドの受け入れ。

- ・ 「医療・福祉・教育」交流拠点の整備（例えば各集落の神社・温泉施設・絶景ポイント さらにそれらを徒歩とバスで回遊できるように）

在宅高齢者の交流拠点への誘い出し、歩かせる。「他」世代と交流させる。座って屯してお茶が飲めて軽く食べられる場所を作る。交流拠点を観光ポイントとしてPRする。島内一次交通バス路線と各拠点接続を整合させる。さらに学生ボランティア、父兄ボランティアがつくる教育自衛団による「寺子屋」を交流拠点に設置する。

- ・ 「居住・観光・医療・福祉・教育」統合型 CCRC への集客

越後広域圏からの I ターン、U ターン

→越後広域セミナー ローカルメディアへの露出

首都圏からの I ターン、U ターン

→首都圏セミナー 全国版メディアへの露出

- ・ 「不便」を「味方に」二次交通の整備（助け合い相互扶助、地域通貨）

シェアライドは早急の課題 徒歩とシルバーカーのための奥の細道ネットワーク整備 これからの成熟した旅のスタイル「巡礼型ツーリズム」にも有効。

他にも

- ・ 再生可能エネルギー 自律的なエネルギー供給
 - ・ 農 学校、施設給食の地産地消
- などなど

- ・ 人が集まる環境作り→健康の基盤作り→CCRCの基本
- そこに必要なものは
- ・ 新鮮な空気、自然環境、おいしいもの
 - ・ 運動、外に出て歩き回ること
 - ・ 人と出会うこと

08-結び

CCRCはリタイア後の暮らしに「明るいビジョン」を描ける社会を作ります。そこで重要なのはリタイアしても「社会や地域から必要とされる」ことであり、「貢献実感」があることです。

観光施策は当然のことながら地域の最重要課題です。

それを踏まえた上で「多世代が集い暮らし続けて行くための気持ちの良い場所作り」と、将来を担う子供達が地域で暮らし続けるための「教育」のあり方が重要と考えます。

佐渡には、自然・食・建築、といった地域資源が豊富にあります。さらに守り伝える伝統芸能が豊富にあることから地域コミュニティが強固に存在します。

したがって、CCRCの形成に必要な資源は出揃っていると考えられます。

そこでCCRCのコア施設として、空き家を活用した「カフェ+ライブラリー」の設立を提案します。

そこは「子供たちの学びの場」であり、「高齢者の見守りの場」であり、「観光滞在者、リモートワーカーのコミュニケーションの場」となります。

一服の友には好みの分かれるコーヒーではなく「地域の茶葉とお湯」を用意してください。

それらを各集落で一番の眺望の良い場所に設置します。

「佐渡のもん」「旅のもん」の「語りべ」を管理者に任命してください。

それによってここを学びの場とした子供達には自然に郷土愛が生まれます。

また、それまであまり観光とは縁のなかった地域であっても観光客が喜び集えるようになります。

交流が生まれることで地域の高齢者も楽しめます。

そんな状況を作ります。

それらが伝統的建築物であればさらに魅力的なものとなるでしょう。

CCRCの実現は「居住・観光」「医療・福祉」「教育」三位一体の取り組みです。

観光だけの施策ではなく、「医療・福祉」→「教育」→「居住・観光」へと連鎖する施策の抽出と実行が求められるでしょう。

この連鎖を働きかける「小さなデザイン」を丁寧につむぎ合わせていくことができれば独自のCCRCと地域社会を創り出すことができると確信します。

今回の滞在を数えると一昨年9月の初上陸から20ヶ月の間に8度の「佐渡R&T(リサーチ&ツーリズム)」を経験することになりました。

その魅力の虜になった今、佐渡と佐渡で知り合った多くの方々のためにできることをひとつずつ丹念に考え、行動に移していきたいと思っています。

桑原 聡

桑原 聡 建築研究所

アトリエ

150-0036 東京都渋谷区南平台町 2-6 南平台ヒルス 404

T/03-5459-9643 F/03-3463-1991

<http://www.s-kuwahara.com>

E-mail kuwa@s-kuwahara.com

Mobile P 090-2305-7592

オークフィールド八幡平

<http://urbane8.jp> (問合せ先：0195-71-1750)

オークフィールド八幡平 Airbnb (宿泊)

https://www.airbnb.jp/users/103298140/listings?user_id=103298140&s=1

